中期目標の達成状況に関する評価結果 (中期目標期間終了時評価)

埼玉大学

令和5年3月

大学改革支援•学位授与機構

目 次

法人の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
(法人の達成状況報告書から転載)	
評価結果	
≪概要≫⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯	5
《本文》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
≪判定結果一覧表≫⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯	19

- -≪本文≫における特記事項の冒頭「○」「●」について-
 - ○:第3期中期目標期間4年目終了時評価において抽出されている特記事項※
 - ●:第3期中期目標期間終了時評価において、4年目終了時評価結果を変えうるような 顕著な変化として、追加で抽出されている特記事項
 - ※ 新型コロナウイルス感染症下における対応については、4年目終了時評価結果を変えうるような顕著な変化の 有無にかかわらず、令和2、3年度における取組や実績等を更新している。

法人の特徴

大学の基本的な目標(中期目標前文)

埼玉大学は、総合大学として、時代を超えた大学の機能である知を継承・発展させ、 新しい価値を創造することを基本的な使命とする。

第1の基本目標として、埼玉大学は、次代を担う人材を育成する高度な教育を実施するとともに、多様な学術研究を行って新たな知を創造し、これらの成果を積極的に社会に発信して、存在感のある教育研究拠点としてより一層輝く。

第2の基本目標として、埼玉大学は、産学官の連携によって、知の具体的な活用を促進し現代が抱える諸課題の解決を図るとともに、地域社会とのコミュニケーションを積極的に図り、そのニーズに応じた人材を育成して、広域地域の活性化中核拠点としての役割を積極的に担う。

第3の基本目標として、埼玉大学は、海外諸機関との連携を推進して、多様なグローバル人材を育成するとともに、人類が抱える世界的諸課題に学術成果を還元し、国際社会に貢献する。

埼玉大学は、多様なニーズやリソースを持つ首都圏の一角を構成する埼玉県にあって、唯一の国立大学であるという特性を最大限に活かし、これらの基本目標の達成に向けてまい進する。

埼玉大学は、より一層の個性化を目指し、平成 28 年に「埼玉大学 ACTION PLAN 2016-2021」を策定した。そこでのキーワードは、「多様性と融合の具現化」である。このプランのもとで、文系、理系、教員養成系の多様な学部と学問が、日本人、外国人、社会人の多様な学生と教職員が1キャンパスに集まるという特徴を強みとして、普遍的な知の府としての基盤強化と、地域活性化拠点として首都圏埼玉に根ざした大学の個性化とを軸として、機能強化を進めることとした。そして、このために、3つの戦略を立て、そのもとに個性の伸長に向けた取組を策定し、着実に大学改革に取り組んできている。

1. 地域活性を目指した融合科学研究・開発の推進と人材育成(戦略1)

地域活性化拠点として、産学官連携による地域課題の解決と人材育成という埼玉大学としての個性化を進め、「多様性と融合の具現化」を目指している。先端産業の創造・集積という首都圏埼玉の課題の解決と関連人材育成のため、理工学研究科と人文社会科学研究科を1キャンパスに有する埼玉大学において、地域の産学官連携により、文理融合科学研究・開発を推進、イノベーションを創出して地域活性を行う。

2. 地域ニーズに即した人材育成と教員養成(戦略2)

首都圏埼玉の地域ニーズに応じた人材育成により、「多様性と融合の具現化」を目指している。学生の入学から、学修、生活、卒業、就職までを一貫して支援するキャリアサポート体制を強化し、教職大学院での教育委員会との連携も含め、地域における多様な産学官連携を通じて、地域に貢献する多様なグローバル人材を育成し、質の高い実践的教員を養成する。

3. 強みを有する分野の国際教育研究拠点化(戦略3)

大学の主たる使命が知の創造と継承であることをしっかりと据え、研究力と人材育成力の強化という知の府としての基盤強化を進め、「多様性の融合と具現化」を目指している。国際的教育研究ネットワークを活かし、世界水準の特色ある理工系研究を一層推進して人材・知の「地域・国際大環流」を創出するとともに、文系・理系の国際教育プログラムの充実や「多文化キャンパス」の創造により、さらなる国際教育研究拠点化を進める。

[個性の伸長に向けた取組(★)]

<戦略1の下での取組>

○文理融合教育として、埼玉県との意見交換も経て、地域企業から提示された課題を学生がフィールドワーク等を通じて解決する「課題解決型プログラム」を、全学部生が学部横断的に履修できるように、平成29年に導入した。

(関連する中期計画 1-1-1-1、1-1-2-1、1-1-2-2、3-1-1-1、3-1-3-2)

○文理融合教育プログラム「イノベーション人材育成プログラム」を、平成 30 年度、工学部 に、学科横断型の科目として導入した。このプログラムでは、クロスアポイントメントで採用した実務家教員による「課題解決型」の授業も設けた。

(関連する中期計画 1-1-1-1、1-1-2-2、1-2-1-1、3-1-1-1)

- ○文理融合教育を全学的にさらに展開することも目指して、平成29年に、教学担当理事、各学部長・研究科長からなる学士課程教育検討PTを設けた。この下に、学士課程の授業科目を分類し、科目群ごとに学部横断的に教員を選任してWGを設け、授業内容の検討を行った。そして、学部間連携の文理融合教育を着実に展開するため、令和2年度より、このPTを新たに「教育企画室」として組織化した。また、令和元年度までの検討の結果、令和2年度より、手始めに数理・データサイエンス教育を全学部学生に展開することを決定した。
- (関連する中期計画 1-1-1-1、1-2-1-1) ○教員の多様性を確保するため、「戦略的ポストサイクルシステム」を導入し、これに基づいて女性限定公募を実施し、採用に結び付けた。

(関連する中期計画 1-2-1-3)

○実務家教員による PBL (Project-Based-Learning) 型授業として、平成 28 年に理工学研究 科に、「課題解決型特別演習」を開設した。

(関連する中期計画 1-1-1-2)

○地域産学官金の協働インターフェイスとして、平成28年4月に先端産業国際ラボラトリーを設置した。ここに、人的ネットワークの場としての共創型ワークショップ・スペース、研究開発・試作・製品化・事業化を一貫して行うための先端産業インキュベーション・スペースを置いた。また、「彩の国健康・医療イノベーション・エコシステム」の構築も目指して、ヘルスケアとメディカルの2つのイノベーション研究ユニットを設けた。

(関連する中期計画 2-1-2-2、3-1-2-2)

○埼玉大学発のバイオベンチャー企業として、平成28年8月に、先端産業国際ラボラトリーから、独自に開発した高速分子進化法を創薬に応用する企業、株式会社Epsilon Molecular Engineering (EME) 社が、起業した。

(関連する中期計画 3-1-2-2)

<戦略2の下での取組>

- ○地域ニーズに即した人材育成と教員養成に大学全体として取り組むため、統合キャリアセンターSUを平成28年4月に設置した。そして、人材育成を通じた地域活性化拠点としての役割を果たすために、たとえば産学官コラボインターンシップを担当するスーパーバイザーを配置して、県や地域企業と連携した課題解決型インターンシップを実施している。(関連する中期計画1-3-1-1、1-3-2-1、1-3-2-2、3-1-1-1、3-1-3-2)
- ○教職大学院を、平成28年4月に開設した。「教育実践力高度化コース」と「発達臨床支援高度化コース」とからなり、埼玉県等の教育委員会と連携し、研究者教員と実務家教員の協働による、理論と実践の融合型カリキュラムを組んでいる。また、地域の現職の教員が学びやすい環境も整えた。

(関連する中期計画 1-1-1-4、1-2-1-3、1-4-2-1、3-1-1-1、3-1-1-2、4-2-1-1、4-2-1-2)

○入試改革検討 WG において、「思考力・判断力・表現力」を問う大学入試共通テストにおける観点や、文部科学省大学入学者選抜改革推進委託事業で公表された評価方法・問題例をとりまとめて、これらを参考に令和3年度入試を設計した。

(関連する中期計画 1-4-1-1)

○「主体性・多様性・協働性」に関する新たな入試方法として、工学部の一般入試前期日程で課した「小論文」について、小論文の成績と入学後のGPA等について検証した。また、工学部以外の学部は、工学部の経験を踏まえて、新たな入試の導入を検討しており、たとえば理学部は新しい入試の導入を決定した。

(関連する中期計画 1-4-1-1、1-4-1-2)

<戦略3の下での取組>

○強みを有する研究分野への人的・物的資源集中により研究力強化を図るため、理工学研究科に戦略的研究部門として、「ライフ・ナノバイオ」、「グリーン・環境」、「感性認知支援」の3領域を設置している。これら3領域は、URAオフィスとの連携の下で、質の高い研究論文数、国際共著論文率、国際共同研究プロジェクト数が延びるなど、着実に成果を上げている。平成29年度には「X線・光赤外線宇宙物理」領域を追加して、さらなる展開をしている

(関連する中期計画 2-1-1-1、2-1-1-2、2-2-1-1、2-2-4-1)

○文理融合などの学際領域研究の推進として、URA の分析を基に、東アジア SD 研究を戦略的研究領域とし、この研究推進体制整備のため、人文社会科学研究科の教員に加えて理工学研究科の教員も参加する「東アジア SD 研究センター」を設置した。

(関連する中期計画 2-1-1-2、2-2-1-2、2-2-3-1)

○幅広い視野と課題解決の応用力を備えた理工系人材育成の量的強化のため、理工学研究科博士前期課程の入学定員を、平成28年度までに100名増員した。また、理工系人材育成の質的強化のため、文理横断型6年一貫教育プログラムも構築した。

(関連する中期計画 1-1-1-1、1-2-1-2)

○高度な専門性を有した人材を育成するため、教養学部、経済学部、人文社会科学研究科は、 5年一貫プログラムを導入し、このプログラムを履修した学部卒業生が大学院博士前期課 程に入学した。

(関連する中期計画 1-1-1-1、1-1-1-3)

○留学生支援策を充実させ、中期目標に掲げられた数値目標、受入留学生 800 名程度、派遣 留学生 300 名程度を、ともに 4 年目終了時に達成した。

(関連する中期計画 4-1-1-1、4-1-1-2)

○日本人学生と外国人学生との交流を深めるため、独自の基金を設立し、これにより混住型 の学生寮を建設した。

(関連する中期計画 4-1-1-1)

- ○教養学部はアメリカ・アーカンソー州立大学、経済学部はフランス・パリ第7大学と、それぞれ学部レベルのダブル・ディグリー・プログラムを締結し、経済学部では修了生を出した。(関連する中期計画 1-1-1-3、4-1-2-1)
- ○理工学研究科は、台湾交通大学との博士後期課程のダブル・ディグリー・プログラムを締結し、修了生を出した。

(関連する中期計画 4-1-2-1)

- ○理工学研究科は、意欲と能力の高い大学院生を対象として、科学的戦略能力と国際化対応力の体系的・主体的な獲得を支援する「Lab-to-Lab 国際大学院教育プログラム」を海外協定校との連携の下に構築し、研究室間レベルでの共同教育・共同研究を実践した。
 - (関連する中期計画 4-1-2-1)
- ○英語のみで修了できる大学院教育プログラムを人文社会科学研究科と理工学研究科に設けた。理工学研究科では、平成29年度に「環境社会基盤国際プログラム」が文部科学省の「2017年度国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に選定され、さらに翌平成30年度にも「独立電源システムを基盤とした社会インフラ整備のための実践的人材育成プログラム」と「発展途上国貧困地域に適用するグリーン・サステナブルケミストリー開発を担う人材育成プログラム」が、この特別プログラムに選定された。

(関連する中期計画 1-4-2-1)

「戦略性が高く意欲的な目標・計画(◆)〕

○イノベーション創出と地域活性を目指した融合科学研究・開発の推進と人材育成イノベーションの創出に資する地域企業等との双方向コミットメントを密にした学内外協働教育により理工系人材育成の質的強化を図り、学内組織の連携による文理融合研究プロジェクト等の構築を通じて学際領域研究を促進する。さらに、新たな組織として「先端産業国際ラボラトリー」を設置し、産学官金の連携による共創スペース等の導入により、地域活性化中核拠点としての役割を果たす。その際に、混合給与(クロスアポイントメント)等に基づく地域企業人の登用により教育研究の活性化を図るとともに、学長のリーダーシップのもとで、学内資源を安定的に確保し、戦略的・重点的な配分を行う。

(関連する中期計画 3-1-2-2)

○地域ニーズに即した人材育成と教員養成

地域志向科目の創設や県内インターンシップの拡充など地域を志向した教育環境を充実させ多様な人材を養成し輩出する。また、実践的なカリキュラムの充実や総合大学の特性を活かした学部・研究科間の連携強化、さらに、教育委員会との連携強化によって、質の高い教員養成を推進する。これらの取組を実施するため、学生のキャリア形成を総合的に支援する「統合キャリアセンターSU」を設置するとともに、学長のリーダーシップのもとで、学内資源を安定的に確保し、学生定員の見直しなど戦略的・重点的な配分を行う。(関連する中期計画 1-3-1-1、3-1-1-2)

○文理融合の実践と強みを有する分野の国際教育研究拠点化

多様な授業科目を4年又は6年間で年次を追って配置し、大学総体で文理融合教育を実践する。また、研究面において、強みを有する研究領域を特定した理工学研究科戦略的研究部門を中心に世界水準の研究を推進するとともに、URA オフィスの機能を活用して新たな強みや特色のある研究分野を特定し、教育研究拠点化を促進する。さらに、グローバルな視点での教育研究拠点化として、学年暦の柔軟化等により学修環境を整えるとともに、キャンパスのグローバル化を促進して、留学生の受入と派遣の数を飛躍的に増加させる。これらの取組を実施するため、学長のリーダーシップのもとで、学内資源を安定的に確保し、学生定員の見直しなど戦略的・重点的な配分を行う。

(関連する中期計画 1-1-1-1、2-1-1-1、2-1-1-2、2-2-1-2、4-1-1-1、4-1-1-2)

評価結果

≪概要≫

第3期中期目標期間の教育研究の状況について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、 埼玉大学の中期目標(大項目、中項目及び小項目)の達成状況の概要は、以下のとおりである。

<判定結果の概要>

#	期目標(大項目)		中其	明目標(小項目)	判定の分	} 布
	中期目標(中項目)	判定	【 5 】 特筆すべ き実績を 上げて いる	【 4 】 優れた実 績を上げ ている	【3】 達成して いる	【2】 十分に達成しているとはい えない	【 1 】 達成して いない
I	教育に関する目標	【 3 】 達成している					
	教育内容及び教育の成果等に関す 1 る目標	【 3 】 達成している			2		
	2 教育の実施体制等に関する目標	【 3 】 達成している			3		
	3 学生への支援に関する目標	【 3 】 達成している			З		
	4 入学者選抜に関する目標	【 3 】 達成している			2		
п	研究に関する目標	【 3 】 達成している					
	1 研究水準及び研究の成果等に関す る目標	【 3 】 達成している			2		
	2 研究実施体制等に関する目標	【 3 】 達成している			4		
ш	社会との連携や社会貢献及び地域を志 向した教育・研究に関する目標	【 3 】 達成している					
		なし			3		
IV	その他の目標	【 3 】 達成している					
	1 グローバル化に関する目標	【 3 】 達成している			3		

[※] 大項目「I 教育に関する目標」及び「Ⅱ 研究に関する目標」においては、4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

≪本文≫

I 教育に関する目標(大項目1)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を達成している

(判断理由)「教育に関する目標」に係る中期目標(中項目)4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(教育)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標(中項目 1-1)

【評価結果】中期目標を達成している

(判断理由)「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1		判定	判断理由		
○文科系・理科系の学術	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて		
分野を融合した教育プログ		成している	「中期計画を実施している」		
ラムを学士課程4年又は学			以上であり、かつ、中期計画		
士課程・修士課程6年一貫			の実施により、小項目を達成		
教育において実施するとと			している。		
もに、大学院課程を中心と	≪特記事	項》			
した人材育成の質的強化を	(特色あ	る点)			
図り、幅広い視野と学術の	〇 文理	融合の課題解決型フ	プログラム		
専門基礎、専攻分野の専門	文理融	合教育実践の一環で	である課題解決型プログラムにつ		
性、優れた思考力・行動力	り いて、埼玉県との意見交換を実施し、平成29年度に導入している。同プログラムは、企業から提示された課題に対し、グループディスカッションやフィールドワーク等のアクティ				
等確かな教養を有する人材					
を社会に送り出す。					
			解決策を導き出すように設計され		
	ている。	(中期計画 1-1-1-1)			
	○ 工学部での文理融合型教育				
			年度から平成29年度に高校2年		
	生(51高	校、6,517名)及で	び民間企業(189社)に対して、		
	新カリキ	ュラムに関するアン	/ケートを実施し、この結果を踏		

	まえて、文理融合教育を目的とするイノベーション人材育成 プログラムを学科横断的に導入している。(中期計画 1-1-1- 2)				
小項目 1-1-2		判定	判断理由		
○全学の教育システム及	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて		
びマネジメントを見直し、		成している	「中期計画を実施している」		
教育の方法及び質を向上さ			以上であり、かつ、中期計画		
せる仕組みを充実させる。			の実施により、小項目を達成		
			している。		
	≪特記事項≫				
	該当な	l			

(2)教育の実施体制等に関する目標(中項目 1-2)

【評価結果】中期目標を達成している

(判断理由)「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目)3項目のうち、 3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1		判定	判断理由		
○「(1)教育内容及び教	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて		
育の成果等に関する目標」		成している	「中期計画を実施している」		
を達成するため、文科系と			以上であり、かつ、中期計画		
理科系との組織の枠を越え			の実施により、小項目を達成		
た連携・協力体制の整備に			している。		
加えて、全学的な教員間の	≪特記事	項》			
協働体制及び地域の産学官	(特色あ	る点)			
の連携・協力体制を構築す	〇 新型	コロナウイルス感染	と症下の教育		
るとともに、適切な教職員	コロナ禍のインターンシップに際し、受入先企業に対				
の配置を行う。	文書で感	や対策が講じられているかを確認し、確認の取れた			
	企業に学	生を派遣している。	また、通信環境の整っていない		
	学生への	Wi-Fi ルーター貸与	・オンライン新入生ガイダンス		
	の実施、	各学部におけるオン	/ライン履修相談体制をとってい		
	るほか、	寄附金を財源とする	る給付型の独自奨学金制度を設け		
	ている。	この他、教員に対し	てはオンライン授業に関する支		
	援(オン	ライン教育に関する	る情報共有の仕組みの構築、FD		
	の実施)	を行っている。			

小項目 1-2-2	判定		判断理由
○学修効果のある質の高	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて
い教育を実施するため、学		成している	「中期計画を実施している」
生の学修行動様式に照らし			以上であり、かつ、中期計画
た教育環境を充実する。			の実施により、小項目を達成
			している。
	≪特記事	項≫	
	該当な	L	
	判定		
小項目 1-2-3		判定	判断理由
小項目 1-2-3○教育の質の改善のため	[3]	判定 中期目標を達	判断理由・ 中期計画の判定がすべて
	[3]	T	
○教育の質の改善のため	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて
○教育の質の改善のため のシステムを確立するとと	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」
○教育の質の改善のため のシステムを確立するとと もに、学生の学修成果を把	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて 「中期計画を実施している」 以上であり、かつ、中期計画
○教育の質の改善のため のシステムを確立するとと もに、学生の学修成果を把 握・評価する体制を充実す	【3】 ≪特記事	中期目標を達成している	・ 中期計画の判定がすべて 「中期計画を実施している」 以上であり、かつ、中期計画 の実施により、小項目を達成

(3) 学生への支援に関する目標(中項目 1-3)

【評価結果】中期目標を達成している

(判断理由)「学生への支援に関する目標」に係る中期目標(小項目)3項目のうち、3 項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-3-1	判定		判断理由		
○今後の社会の形成者と	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて		
して必要な態度・素養と主		成している	「中期計画を実施している」		
体性・協働性等の行動性向			以上であり、かつ、中期計画		
を身に付けられるように、			の実施により、小項目を達成		
学生の実態を把握しつつ、			している。		
体制を整備し適切な支援活	≪特記事	項》			
動を行う。	(特色あ	る点)			
	○ メンタルヘルスに関する相談体制の整備				
	ハラスメント、精神障がい・発達障害・心理的問題、学業				
	以外の生	活、将来への悩み等	学、学生が修学上直面するあらゆ		
	る相談に	対応するため、学内	R機関のなんでも相談室、保健管		
	理センター、ダイバーシティ推進オフィスと連携する相談体				
	制の充実に努めるとともに「なんでも相談室勉強会」、「メン				
	タルヘル	スケア連絡会」を実	尾施している。また、チャットボ		

	ットを導入し、24 時間学生からの質問に答えられる仕組み					
	を整えている。これらの取組により、なんでも相談室の相談					
	件数は、平成 28 年度 349 件から令和元年度 985 件に増加し					
	ている。(中期計画 1-3-1-1)					
小項目 1-3-2		判定	判断理由			
○経済的困難のある学	【3】 中期目標を達 ・ 中期計画の判定がすべて					
生、障がいのある学生及び	成している「中期計画を実施している」					
外国人留学生など、特別な	以上であり、かつ、中期計画					
援助・支援を要する学生が			の実施により、小項目を達成			
安心して学業に集中し、充			している。			
 実した学生生活を送ること	≪特記事	項》				
ができるよう、相談に応	(特色あ	 る点)				
じ、支援を行う。	● 新型	コロナウイルス感染	☆症下における経済支援			
	修学サ	ポート基金を原資と	さする「埼玉大学緊急支援奨学			
	金」の給	付、学生食堂のコロ	zナ禍フード支援「メリンちゃん			
	スペシャ	ルカレー」の無料携	是供、クラウドファンディングの			
	活用によ	るコロナ禍フード支	で援である 100 円食堂の実施、ワ			
	クチン接	種を受けた 2,040 名	この学生へのドリンクや即席麺の			
	配付、学	生 634 名へのレトル	ト食品の配付等を行っている。			
	(中期計	画 1-3-2-1)				
小項目 1-3-3		判定	判断理由			
○学生が適性に応じた職	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて			
業を自ら選択できる能力を		成している	「中期計画を実施している」			
育成するためのキャリア形			以上であり、かつ、中期計画			
成に資する就職支援を行			の実施により、小項目を達成			
う。			している。			
	≪特記事	項》				
	(特色あ	 る点)				
	新し	い就職支援ツールの)導入			
	新たな	就職支援ツールとし	して「LINE@」を導入し、各種就			
	職セミナ	一等の開催案内・勍	よ職情報発信及び参加受付予約を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
	開始し、ウェブサイト「OBOG プラットフォーム」を平成 29					
	年度より	開設して、OBOG リン	ストや就職活動の体験談やアド			
	バイスの	発信を行い、LINE@	②を通じて得た学生ニーズから			
	0B0G プラ	ットフォームの機能	能を改善している。(中期計画 1-			
	3-3-1)					
	3-3-1)					

(4)入学者選抜に関する目標(中項目 1-4)

【評価結果】中期目標を達成している

(判断理由)「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標(小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-4-1		判定	判断理由		
○学士課程の入試では、	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて		
アドミッション・ポリシー		成している	「中期計画を実施している」		
に基づき、知識偏重の入学			以上であり、かつ、中期計画		
者選抜から脱却し、「知			の実施により、小項目を達成		
識・技能」「思考力・判断			している。		
力・表現力」「主体性・多	≪特記事	項》			
様性・協働性」を適切に評	該当な	L			
価する多面的・総合的な選					
抜に転換する。					
小項目 1-4-2		判定	判断理由		
○大学院課程の入試で	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて		
は、日本人学生・留学生・		成している	「中期計画を実施している」		
社会人学生など多様な調和			以上であり、かつ、中期計画		
的存在のなかで教育・研究			の実施により、小項目を達成		
を進めるために、留学生や			している。		
社会人を積極的に受け入れ	≪特記事	項》			
る。	(特色あ	る点)			
	○ 大学院教育のグローバル化				
	英語による大学院教育プログラムとして、これまでの「環				
	境社会基	盤国際プログラム」	に加え、「独立電源システムを		
			前のための実践型人材育成プログ		
			団地域に適用するグリーン・サス		
			開発を担う人材育成プログラム」		
			5。なお、これらプログラムは、		
	文部科学省の「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プロ				
	グラム」に選定されている。(中期計画 1-4-2-1)				
	- , , ,		/ブ・プログラムの実施		
			¥経営専攻)では、基礎能力がす		
			課程から後期課程の博士号取得ま		
	で短縮修	了を可能にする「イ	(ンテンシブ・プログラム」、コ		

ースワークに重点を置いて学位論文に代えて特定課題研究成果物を審査する「課題研究プログラム」を導入している。 (中期計画 1-4-2-1)

Ⅱ 研究に関する目標(大項目2)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を達成している

(判断理由)「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目 2-1)

【評価結果】中期目標を達成している

(判断理由)「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1		判定	判断理由	
○大学として強みや特色	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて	
のある研究分野について、		成している	「中期計画を実施している」	
全国的な研究拠点として推			以上であり、かつ、中期計画	
進し、世界水準の研究分野			の実施により、小項目を達成	
ヘダイナミックに展開する			している。	
とともに、学際領域をはじ	≪特記事	項》		
めとする多様性のある学術	該当なし			
研究を推進する。				
小項目 2-1-2		判定	判断理由	
○強みや特色のある研究	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて	
成果を積極的に公開すると		成している	「中期計画を実施している」	
ともに、本学の持つ研究力			以上であり、かつ、中期計画	
を結集して首都圏地域にお			の実施により、小項目を達成	
ける自治体・企業・地域社			している。	
会が抱える課題の解決やイ	≪特記事項≫			
ノベーション創出に資す	該当なし			
る。				

(2) 研究実施体制等に関する目標(中項目 2-2)

【評価結果】中期目標を達成している

(判断理由)「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標(小項目) 4項目のうち、 4項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1		判定	判断理由		
○強みや特色のある研究	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて		
成果を生むための効果的な		成している	「中期計画を実施している」		
研究実施体制の整備を行			以上であり、かつ、中期計画		
う。			の実施により、小項目を達成		
			している。		
	≪特記事	項≫			
	該当な	L			
小項目 2-2-2		判定	判断理由		
○大学の研究戦略に即し	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて		
た研究環境整備を行う。		成している	「中期計画を実施している」		
			以上であり、かつ、中期計画		
			の実施により、小項目を達成		
			している。		
	≪特記事	項》			
	(特色あ	る点)			
	○ 時間	回復プロジェクトラ	チームの設置		
	学長室に研究力/人材育成力の強化に向けた「時間回復プ				
	ロジェクトチーム」を設置し、教員の管理運営業務負担を見				
	直している。負担軽減策として、会計業務サポート強化、試				
	験監督業	務の軽減、検収業剤	務の軽減、教授会での審議事項の		
	最小化、	Web 投票の導入計画	i等を策定し、関係部局へ実施を		
	促すこと	により、教員の管理	里運営業務にあてられていた時間		
	を削減し	ている。(中期計画	·		
小項目 2-2-3		判定	判断理由		
○強みや特色のある研究		中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて		
分野等において、世界水準		成している	「中期計画を実施している」		
の研究を推進するための研			以上であり、かつ、中期計画		
究環境を醸成する。			の実施により、小項目を達成		
	// 44 == -t-	——————————————————————————————————————	している。		
	≪特記事				
	該当なし				

小項目 2-2-4		判定	判断理由
○客観的データ等に基づ	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて
き、研究の質を向上させる		成している	「中期計画を実施している」
システムを充実する。			以上であり、かつ、中期計画
			の実施により、小項目を達成
			している。
	≪特記事	項≫	
	該当な	L	

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を達成している

(判断理由)「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に 係る中期目標(小項目)3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」 であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1		判定	判断理由			
○地域社会との連携を一	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて			
層推進し、本学の教育によ		成している	「中期計画を実施している」			
り養成する多様な人材を、			以上であり、かつ、中期計画			
埼玉県をはじめとする首都			の実施により、小項目を達成			
圏地域社会に輩出する。			している。			
	≪特記事	項》				
	該当な	L				
小項目 3-1-2		判定	判断理由			
○強みや特色のある研究	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて			
力の強化と、自治体・企		成している	「中期計画を実施している」			
業・地域社会との連携によ			以上であり、かつ、中期計画			
る、事業化・起業等を見据			の実施により、小項目を達成			
えた応用研究・開発力の強			している。			
化を一層推進し、首都圏地	≪特記事	項≫				
域社会の活性化に資する。	(特色あ	る点)				
	○ 首都	高速道路の工期短網	富への貢献			
	首都高	速道路株式会社との)包括連携を締結し、協定の一環			
	として、	共同研究した DAK フ	プレキャスト壁高欄(鉄筋コンク			
	リート製壁高欄を工場で製作し、現場に運んで組み立てる)					
	の実大載荷実験を実施し、首都高速道路として初めての採用					
	につなげ	ている。なお、この	プレキャスト壁高欄は、板橋			
	JCT~熊野	予町 JCT における渋	滞解消のための車線拡幅工事の			
	工期短縮	のために用いられて	ている。(中期計画 3-1-2-1)			

小項目 3-1-3		判定	判断理由
○埼玉県、さいたま市、	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて
及び地域貢献に関する協定		成している	「中期計画を実施している」
締結先機関との連携活動			以上であり、かつ、中期計画
を、学内諸組織との協働や			の実施により、小項目を達成
学生の参画をもってより一			している。
層強化する。	≪特記事	項》	
	(特色あ	る点)	
	〇 地域	と連携した学生によ	る課題解決
	学生が	参加する連携活動と	:して、県、地域企業との連携に
	よる課題	解決型プログラムの)他、埼玉県、さいたま市への政
	策提言の	場を設け「ピクトク	「ラム入りうちわ」の提言などが
	政策とし	て実施されている。	(中期計画 3-1-3-2)
	○ 企業	連携に基づく課題解	ア 決型インターシップ
	JR 東日	本大宮支社との連打	携協定に基づき、課題解決型イ
	ンターン	シップ授業を開講し	ている。なお、この授業では、
	教育学部	の学生が、栄養学に	関する授業カリキュラムの中で
	考案した	レシピのアイデアを	さもとに、JR 東日本大宮駅構内
	商業施設	のショップ「イーシ	/ョンベジプラス」と共同開発し
	たお弁当	が商品化されている	5。(中期計画 3-1-3-2)

Ⅳ その他の目標(大項目4)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を達成している

(判断理由)「その他の目標」に係る中期目標(中項目)が1項目であり、当該中項目が 「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) グローバル化に関する目標(中項目 4-1)

【評価結果】中期目標を達成している

(判断理由)「グローバル化に関する目標」に係る中期目標(小項目)3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1		判定	判断理由
○専門分野に応じた有能	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて
なグローバル人材を育成す		成している	「中期計画を実施している」
るため、研究を通じた普遍			以上であり、かつ、中期計画
的な国際教育プログラムを			の実施により、小項目を達成
国際連携により深化させる			している。
とともに、戦略的に留学生	≪特記事	項》	
の受入、派遣人数の飛躍的	該当な	L	
増加を図るため、地域活性			
化にも着目したキャンパス			
のグローバル化を促進す			
る。			
小項目 4-1-2		判定	判断理由
○国境を越え海外の優れ	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて
た高等教育機関等との教育		成している	「中期計画を実施している」
連携や研究者間レベルでの			以上であり、かつ、中期計画
共同研究を飛躍的に促進			の実施により、小項目を達成
し、グローバル化が進む社			している。
会の特定分野に貢献する人	≪特記事	項≫	
材育成を図る。	該当な	L	

小項目 4-1-3		判定	判断理由
○海外の高等教育機関等	[3]	中期目標を達	・ 中期計画の判定がすべて
向けに特色ある取組みを国		成している	「中期計画を実施している」
際広報する。			以上であり、かつ、中期計画
			の実施により、小項目を達成
			している。
	≪特記事	項≫	
	該当な	L	

≪判定結果一覧表≫

中期目標(大項目) 中期目標(中項目) 中期目標(小項目) 中期目標(小項目)			下位の中期目標・ 中期計画における 各判定の平均値 ※	(参考) 4年目 終了時 評価の 判定
大項目1 教育に関する目標	[3]	達成して いる	3.11 うち現況分析結果加算点 0.11	[3]
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	[3]	達成している	3.00	[3]
小項目1-1-1 ○文科系・理科系の学術分野を融合した教育プログラムを学士課程4年又は学士課程・修士課程6年一貫教育において実施するとともに、大学院課程を中心とした人材育成の質的強化を図り、幅広い視野と学術の専門基礎、専攻分野の専門性、優れた思考力・行動力等確かな教養を有する人材を社会に送り出す。	[3]	達成して いる	2.25	[3]
中期計画1-1-1-1(★)(◆) 【1-1】○文理融合教育を実践するため、教養・専門基礎・専門・異分野専門基礎科目、グローバル・地域連携関連科目等の多様な授業科目を4年又は6年の間で年次を追って配置する。特に工学部では、現代的課題解決に資する工学と社会科学の融合も含めた新たな教育プログラムを学科横断で導入する。その際に、本学に対するステークホルダー(在学生、卒業生、地域産業界等)のニーズを恒常的に把握するとともに、進路状況等の客観的データに基づき、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーの妥当性を常に検証する。	[3]	優れた実績を上げている		[3]
中期計画1-1-1-2(★) 【1-2】○理工系人材育成の質的強化を図り、新たな価値を創造し社会変革(イノベーション)を起こし得る力を養成するため、理工学研究科では、大学と地域企業等との双方向コミットメントを密にした学内外協働教育により、実務教育を実施するとともに、社会人の大学院進学に繋がるノンディグリープログラムの拡充など、社会人の学び直しの場を整備する。	[2]	実施している		[2]
中期計画1-1-1-3(★) 【1-3】○人社系人材育成の質的強化のため、教養学部、経済学部及び人文社会科学研究科では、ダブル・ディグリー制度、アジア文化交流研究等のグローバルな素養を涵養する教育プログラムを通して、社会構造の変化に的確に応え、教育課程と指導体制を充実・強化する。また、社会人の大学院進学に繋がるノンディグリープログラムの拡充など、社会人の学び直しの場を整備する。	[2]	実施している		[2]
中期計画1-1-1-4(★) 【1-4】○教員養成の質的強化のため、教育学部及び教育学研究科では、学校現場での経験者教員による授業の実施など小学校教員養成を重視した実践的なカリキュラムの下に、質の高い小学校教員を養成するとともに、総合大学の特性・専門性を活かし他学部・研究科との連携を強化して、質の高い中学校教員等を養成する。	[2]	実施している		[2]
小項目1-1-2○全学の教育システム及びマネジメントを見直し、教育の方法及び質を向上させる仕組みを充実させる。	[3]	達成している	2.00	[3]
中期計画1-1-2-1(★) 【2-1】○カリキュラム・ポリシーに基づき、アクティブ・ラーニングの普及、学修時間の確保・増加、学修成果の可視化、4学期制(クォーター制)に基づいた学士課程プログラムの整備など、教育の質を向上させる全学的な教学マネジメントシステムを確立する。	[2]	実施している		[2]
中期計画1-1-2-2(★) 【2-2】○インターンシップ等の学外学修による課題解決型の学修を積極的に取り入れる。その効果を学生アンケートの自己評価や学修成績の分析により検証し、達成度評価による目標到達度80%以上の学生が80%以上となるよう促進する。	[2]	実施している		[2]
中期計画1-1-2-3 【2-3】〇「学生が何を身に付けたか」を、各授業科目の到達目標に応じた厳格な成績評価のもとカリキュラムマップ及び学生の履修記録により把握し、ディプロマ・ポリシーに合致する学位授与を行う。	[2]	実施している		[2]

中期目標(中項目) 中期目標(小項目)	下位の中期目標・ 4:		(参考 4年) 終年 終一 終一 判定	
		T		117
□項目1-2 教育の実施体制等に関する目標	[3]	達成して いる	3.00	[3
小項目1-2-1 ○「(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標」を達成するため、文科系と理科系との組織の枠を越えた連携・協力体制の整備に加えて、全学的な教員間の協働体制及び地域の産学官の連携・協力体制を構築するとともに、適切な教職員の配置を行う。	[3]	達成して いる	2.00	[3
中期計画1-2-1-1(★) 【3-1】○文理融合の教育課程を具現化するため、教養学部・経済学部・人文社会科学研究科及び理学部・工学部・理工学研究科とが連携した教育を実施するなど、全学的な教員間の協働体制を整備する。	[2]	実施している		[2
中期計画1-2-1-2(★) 【3-2】○理学部、工学部及び理工学研究科では、6年一貫教育体制を整備するとともに、大学院課程における大学と地域企業等との双方向コミットメントを密にした学内外協働教育体制を整備する。	[2]	実施している		[2
中期計画1-2-1-3(★) 【3-3】○教員採用や配置にあたっては、教員の年齢構成を平準化し、女性教員・外国人教員の割合を高めることなどにより、多様な教員構成とする。また、教育学部及び教育学研究科では、実践型教員養成機能への質的転換のため、学校現場での経験者教員を20%確保する。	[2]	実施している		[2
小項目1-2-2 ○学修効果のある質の高い教育を実施するため、学生の学修行動様式に照らした教育環境を充実する。	[3]	達成して いる	2.00	[3
中期計画1-2-2-1 【4-1】〇ティーチング・アシスタント(TA)及びスチューデント・アシスタント(SA)等による教育の補助体制を、TA・SA研修会の実施や学生アンケートの結果を踏まえた改善等により充実させるとともに、学生の学修行動様式や自主的学修環境の利用状況を把握し、学生の自主的学修に適した教育環境を充実する。	[2]	実施している		[2
→ 小項目1-2-3 ○教育の質の改善のためのシステムを確立するとともに、学生の学修成果を把握・評価する体制を充実する。	[3]	達成して いる	2.00	[3
中期計画1-2-3-1 【5-1】〇教育課程の体系化、教育方法、教育の質保証等について、計画から実施、点検・評価、改善までの一連のPDCAサイクル機能である教学マネジメントシステムを、教育企画室において構築する。併せて、教員のファカルティ・ディベロップメント(FD)研修を強化するとともに、ステークホルダーに対する意見聴取を活用するなど、教育の質保証の仕組みを充実する。	[2]	実施している		[2
□ □項目1-3 学生への支援に関する目標	[3]	達成して いる	3.00	[3
小項目1-3-1 ○今後の社会の形成者として必要な態度・素養と主体性・協働性等の行動性向を身に付けられるように、 学生の実態を把握しつつ、体制を整備し適切な支援活動を行う。	[3]	達成して いる	2.50	[3
中期計画1-3-1-1(★)(◆) 【6-1】○教育機構、学部・研究科が連携して、全学生を対象に修学や生活に関する意識・ニーズ調査を実施し、実情を把握・分析する。その調査・分析結果及び支援分野別の満足度調査の結果を踏まえて、体制を充実させ新たに設置する統合キャリアセンターSUにおいて、支援活動を改善させていくとともに、満足度を向上させる。	[3]	優れた実績を上げている		[3

期目標(大項目)				(参考)
月目標(中項目)		l定	下位の中期目標・	4年目 終了時
中期目標(小項目)	'		各判定の平均値 ※	評価の 判定
中期計画				
中期計画1-3-1-2 【6-2】〇学生への学修支援や生活支援等についての教職員の理解と学生指導・支援のスキルを向上させるため、FD及びスタッフ・ディベロップメント(SD)のWeb講習会参加など研修会を充実する。	[2]	実施している		[2]
	[0]	達成して	2.50	[3]
○経済的困難のある学生、障がいのある学生及び外国人留学生など、特別な援助・支援を要する学生が 安心して学業に集中し、充実した学生生活を送ることができるよう、相談に応じ、支援を行う。	[3]	達成して	2.50	[3]
中期計画1-3-2-1(★)	[3]	優れた宝		[2]
【7-1】○統合キャリアセンターSUは、経済的困難のある学生に対する授業料免除、奨学金給貸与等の対象者の割合やニーズの把握による制度の検証を行い、適切な支援を行う。	[3]	優れた実 績を上げ ている		121
中期計画1-3-2-2(★)	[2]	実施して		[2]
【7-2】○統合キャリアセンターSU、国際本部は、学部・研究科と連携して障がいのある学生、外国人留学生等がどのような援助・支援を要するのか把握し、個々の事情に応じたきめ細やかな支援を行う。	[2]	้าเจ้		[2]
小項目1-3-3	[3]	達成して	2.00	[3]
○学生が適性に応じた職業を自ら選択できる能力を育成するためのキャリア形成に資する就職支援を行う。	[3]	達成している	2.00	[3]
中期計画1-3-3-1	[2]	実施して		[2]
【8-1】〇学生にキャリア形成を意識させるため、教育機構は全学共通に対応すべき事項、学部・研究科は個別事情に応じた事項、国際本部は外国人留学生に係る事項について、それぞれ密接な連携の下で、セミナー等支援活動の満足度や就職率等を踏まえた効果的な支援を行う。		เกือ		[2]
中期計画1-3-3-2	[2]	実施している		[2]
【8-2】〇埼玉大学産学官連携協議会、さいたま市等と連携して、恒常的に合同企業説明会を実施する。				
項目1-4	[3]	達成して いる	3.00	[3]
入学者選抜に関する目標		(10)		
小項目1-4-1	[3]	達成して	2.00	[3]
○学士課程の入試では、アドミッション・ポリシーに基づき、知識偏重の入学者選抜から脱却し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を適切に評価する多面的・総合的な選抜に転換する。		いる		
中期計画1-4-1-1(★)	[2]	実施している		[2]
【9-1】〇アドミッション・ポリシーを見直し明確化するとともに、「確かな学力」を育む高等学校教育と本学の教育を適切に接続させるため、明確化したアドミッション・ポリシーに基づき、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価・判定する入学者選抜方法を導入する。		いる		
中期計画1-4-1-2(★)				
【9-2】○入学者の学修状況等に関する追跡調査を実施し、アドミッション・ポリシーに沿った人材像となっていたか、入試選抜の適切性を検証し、その結果を選抜方法等にフィードバックする。	[2]	実施している		[2]
 小項目1-4-2	7.07	法ピー	2.00	7.23
○大学院課程の入試では、日本人学生・留学生・社会人学生など多様な調和的存在のなかで教育・研究 を進めるために、留学生や社会人を積極的に受け入れる。	[3]	達成している	2.00	[3]
中期計画1-4-2-1(★)	[2]	実施している		[2]
【10-1】〇大学院課程では、留学生や社会人に魅力ある教育プログラムを整えるとともに、英語による面接、在外受験及び多様な社会人に対応した特別選抜など、留学生や社会人が受験しやすい選抜方法を導入・充実する。	121	เกือ		121

中期目標(大項目) 中期目標(中項目) 中期目標(小項目) 中期計画	- - 半!	定	下位の中期目標・ 中期計画における 各判定の平均値 ※	(参考) 4年目 終了時 評価の 判定
大項目2 研究に関する目標	[3]	達成して いる	3.00 うち現況分析結果加算点 0.00	[3]
中項目2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	[3]	達成して いる	3.00	[3]
小項目2-1-1 ○大学として強みや特色のある研究分野について、全国的な研究拠点として推進し、世界水準の研究分野へダイナミックに展開するとともに、学際領域をはじめとする多様性のある学術研究を推進する。	[3]	達成して いる	2.33	[3]
中期計画2-1-1-1(★)(◆) 【11-1】○大学院理工学研究科に設置した戦略的研究部門(ライフ・ナノバイオ領域、グリーン・環境領域、感性認知支援領域、X線・光赤外線宇宙物理領域)において、国際共同研究を進め、高水準の学術論文等その成果を発信するとともに、国際共著論文の割合を増やし、強みのある先端的研究分野として世界水準の研究を推進する。	[3]	優れた実績を上げている		[3]
中期計画2-1-1-2(★)(◆) 【11-2】○リサーチ・アドミニストレーター(URA)オフィスを中心としたインスティテューショナル・リサーチ(IR)による本学研究活動の状況分析等により、新たな強みや特色のある研究分野を特定し、全国的な研究拠点化を図るとともに、さらには世界水準の研究分野へ推進する。	[2]	実施している		[2]
中期計画2-1-1-3 【11-3】〇研究分野の多様性に配慮しつつ、研究費等の支援により文理融合などの学際領域研究を推進し、新たな強みや特色のある研究分野へ成長させる。	[2]	実施している		[2]
小項目2-1-2 ○強みや特色のある研究成果を積極的に公開するとともに、本学の持つ研究力を結集して首都圏地域における自治体・企業・地域社会が抱える課題の解決やイノベーション創出に資する。	[3]	達成して いる	2.00	[3]
中期計画2-1-2-1 【12-1】〇強みや特色のある研究成果をホームページで公開するとともに、マスメディアを活用し、首都 圏地域における自治体・企業・地域社会等に対して積極的に情報を提供することで社会に還元する。	[2]	実施している		[2]
中期計画2-1-2-2(★) 【12-2】○埼玉県・首都圏地域をはじめとした自治体・企業・地域社会のニーズを把握し、本学が持つシーズとのマッチングを図り、その課題解決やイノベーション創出を図るための研究を推進する。	[2]	実施している		[2]
中項目2-2 研究実施体制等に関する目標	[3]	達成して いる	3.00	[3]
小項目2-2-1 ○強みや特色のある研究成果を生むための効果的な研究実施体制の整備を行う。	[3]	達成して いる	2.00	[3]
中期計画2-2-1-1(★) 【13-1】○戦略的研究部門や新たな強み及び特色のある研究分野に対して、重点的に若手研究者や研究支援者等の配置を行う。	[2]	実施している		[2]
中期計画2-2-1-2(★)(◆) 【13-2】○文理融合など学際領域研究を促進するために、人文社会科学研究科及び理工学研究科等の連携による融合研究プロジェクト等を構築する。	[2]	実施している		[2]
中期計画2-2-1-3 【13-3】〇優秀な若手研究者人材確保・育成のためのテニュアトラック制の定着を図り、新規採用者のうちテニュアトラック教員の割合を25%とすることを目指す。	[2]	実施している		[2]

期目標(中項目) 中期目標(小項目)		定	下位の中期目標・ 中期計画における 各判定の平均値	4年 終了 評価
中期計画			*	判定
小項目2-2-2	[0]	達成して	2.00	F.
○大学の研究戦略に即した研究環境整備を行う。	[3]	達成して いる	2.00	[:
中期計画2-2-2-1	[0]	宇佐して		.
【14-1】〇施設・設備に関するマスタープランに基づき、計画的・継続的なスペースの確保や研究設備の整備を行い、効果的な研究環境整備を推進する。	[2]	実施している		[2
小項目2-2-3	[3]	達成して いる	2.00	ľ
○強みや特色のある研究分野等において、世界水準の研究を推進するための研究環境を醸成する。		いる		•
中期計画2-2-3-1(★)	[2]	実施している		T:
【15-1】〇学術交流協定締結校をはじめとする海外の大学等研究機関等との国際共同研究、人的交流及び相互啓発活動を推進する。	121	เงื่อ		
小項目2-2-4	[3]	達成して いる	2.00	ľ
○客観的データ等に基づき、研究の質を向上させるシステムを充実する。	.01	いる		``
中期計画2-2-4-1(★)	[2]	実施している		[2
【16-1】〇各研究科等は、URAオフィスとの連携により、論文の引用数等IRによるデータ指標を活用し、強みや特色のある研究分野の検証を行うなど、研究の質を向上させる仕組みを充実する。		いる		_
[目3	[3]	達成して いる	3.00	Ţ;
社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	101	いる		\
	なし	_		
	みし			· *:
			_	な
小項目3-1-1	[3]	達成して	2.00	
小項目3-1-1 ○地域社会との連携を一層推進し、本学の教育により養成する多様な人材を、埼玉県をはじめとする首都 圏地域社会に輩出する。	[3]	達成して いる	2.00	
○地域社会との連携を一層推進し、本学の教育により養成する多様な人材を、埼玉県をはじめとする首都			2.00	Ţ;
○地域社会との連携を一層推進し、本学の教育により養成する多様な人材を、埼玉県をはじめとする首都 圏地域社会に輩出する。	[3]	達成している	2.00	[:
 ○地域社会との連携を一層推進し、本学の教育により養成する多様な人材を、埼玉県をはじめとする首都圏地域社会に輩出する。 中期計画3-1-1-1(★) 【17-1】○大学と地域企業等との双方向コミットメントを密にした学内外協働による実務教育の実施、地域志向科目の創設、県内インターンシップの充実など、地域を志向した教育環境を充実させ、首都圏地域社会にイノベーション人材、グローベル人材等の多様な人材を輩出する。また、大学と教育委員会との 		実施している	2.00	[c
 ○地域社会との連携を一層推進し、本学の教育により養成する多様な人材を、埼玉県をはじめとする首都圏地域社会に輩出する。 中期計画3-1-1-1(★) 【17-1】○大学と地域企業等との双方向コミットメントを密にした学内外協働による実務教育の実施、地域志向科目の創設、県内インターンシップの充実など、地域を志向した教育環境を充実させ、首都圏地域社会にイノベーション人材、グローバル人材等の多様な人材を輩出する。また、大学と教育委員会との連携により、一貫した教員養成・研修による教員の資質向上を図る。 	[2]	実施して	2.00	C:
 ○地域社会との連携を一層推進し、本学の教育により養成する多様な人材を、埼玉県をはじめとする首都圏地域社会に輩出する。 中期計画3-1-1-1(★) 【17-1】○大学と地域企業等との双方向コミットメントを密にした学内外協働による実務教育の実施、地域志向科目の創設、県内インターンシップの充実など、地域を志向した教育環境を充実させ、首都圏地域社会にイノベーション人材、グローバル人材等の多様な人材を輩出する。また、大学と教育委員会との連携により、一貫した教員養成・研修による教員の資質向上を図る。 中期計画3-1-1-2(★)(◆) 【17-2】○平成28年度の教育学研究科専門職学位課程の設置に伴い、平成33年度末には、修了者の教員就職率を90%とし、また、専門職学位課程の設置と連動させて、教育学部では、県内における小学校教員養成の拠点機能を果たすべく実践的な教育を充実させ、平成33年度末には、小学校教員採用の 	[2]	実施している	2.00	[:
 ○地域社会との連携を一層推進し、本学の教育により養成する多様な人材を、埼玉県をはじめとする首都圏地域社会に輩出する。 中期計画3-1-1-1(★) 【17-1】○大学と地域企業等との双方向コミットメントを密にした学内外協働による実務教育の実施、地域志向科目の創設、県内インターンシップの充実など、地域を志向した教育環境を充実させ、首都圏地域社会にイノベーション人材、グローバル人材等の多様な人材を輩出する。また、大学と教育委員会との連携により、一貫した教員養成・研修による教員の資質向上を図る。 中期計画3-1-1-2(★)(◆) 【17-2】○平成28年度の教育学研究科専門職学位課程の設置に伴い、平成33年度末には、修了者の教員就職率を90%とし、また、専門職学位課程の設置と連動させて、教育学部では、県内における小学校教員養成の拠点機能を果たすべく実践的な教育を充実させ、平成33年度末には、小学校教員採用の県内占有率35%を確保する。 	[2]	実施している		[2
 ○地域社会との連携を一層推進し、本学の教育により養成する多様な人材を、埼玉県をはじめとする首都圏地域社会に輩出する。 中期計画3-1-1-1(★) 【17-1】○大学と地域企業等との双方向コミットメントを密にした学内外協働による実務教育の実施、地域志向科目の創設、県内インターンシップの充実など、地域を志向した教育環境を充実させ、首都圏地域社会にイノベーション人材、グローバル人材等の多様な人材を輩出する。また、大学と教育委員会との連携により、一貫した教員養成・研修による教員の資質向上を図る。 中期計画3-1-1-2(★)(◆) 【17-2】○平成28年度の教育学研究科専門職学位課程の設置に伴い、平成33年度末には、修了者の教員就職率を90%とし、また、専門職学位課程の設置と連動させて、教育学部では、県内における小学校教員養成の拠点機能を果たすべく実践的な教育を充実させ、平成33年度末には、小学校教員採用の県内占有率35%を確保する。 小項目3-1-2 ○強みや特色のある研究力の強化と、自治体・企業・地域社会との連携による、事業化・起業等を見据え 	[2]	実施している		
 ○地域社会との連携を一層推進し、本学の教育により養成する多様な人材を、埼玉県をはじめとする首都圏地域社会に輩出する。 中期計画3-1-1-1(★) 【17-1】○大学と地域企業等との双方向コミットメントを密にした学内外協働による実務教育の実施、地域志向科目の創設、県内インターンシップの充実など、地域を志向した教育環境を充実させ、首都圏地域社会にイノベーション人材、グローバル人材等の多様な人材を輩出する。また、大学と教育委員会との連携により、一貫した教員養成・研修による教員の資質向上を図る。 中期計画3-1-1-2(★)(◆) 【17-2】○平成28年度の教育学研究科専門職学位課程の設置に伴い、平成33年度末には、修了者の教員就職率を90%とし、また、専門職学位課程の設置と連動させて、教育学部では、県内における小学校教員養成の拠点機能を果たすべく実践的な教育を充実させ、平成33年度末には、小学校教員採用の県内占有率35%を確保する。 小項目3-1-2 ○強みや特色のある研究力の強化と、自治体・企業・地域社会との連携による、事業化・起業等を見据えた応用研究・開発力の強化を一層推進し、首都圏地域社会の活性化に資する。 	[2]	実施している		[2
 ○地域社会との連携を一層推進し、本学の教育により養成する多様な人材を、埼玉県をはじめとする首都圏地域社会に輩出する。 中期計画3-1-1-1(★) 【17-1】○大学と地域企業等との双方向コミットメントを密にした学内外協働による実務教育の実施、地域志向科目の創設、県内インターンシップの充実など、地域を志向した教育環境を充実させ、首都圏地域社会にイノベーション人材、グローバル人材等の多様な人材を輩出する。また、大学と教育委員会との連携により、一貫した教員養成・研修による教員の資質向上を図る。 中期計画3-1-1-2(★)(◆) 【17-2】○平成28年度の教育学研究科専門職学位課程の設置に伴い、平成33年度末には、修了者の教員裁職率を90%とし、また、専門職学位課程の設置と連動させて、教育学部では、県内における小学校教員養成の拠点機能を果たすべく実践的な教育を充実させ、平成33年度末には、小学校教員採用の県内占有率35%を確保する。 小項目3-1-2 ○強みや特色のある研究力の強化を、自治体・企業・地域社会との連携による、事業化・起業等を見据えた応用研究・開発力の強化を一層推進し、首都圏地域社会の活性化に資する。 中期計画3-1-2-1 【18-1】○オープンイノベーションセンター及び社会調査研究センターを中心に自治体・企業・地域社会における課題やニーズの把握に積極的に取り組み、これらの多様な社会セクターと連携した研究活動等 	[2]	実施しててはいるとは、いるとは、いるとは、いるとは、いるとは、いるとは、いるとは、いるとは		[:

中期目標(大項目)				(参考)
中期目標(中項目)] ──判定		下位の中期目標・ 中期計画における	4年目 終了時
中期目標(小項目)	, T'	175	各判定の平均値 ※	評価の制定
中期計画		T	Λ.	TIJÆ
小項目3-1-3 ○埼玉県、さいたま市、及び地域貢献に関する協定締結先機関との連携活動を、学内諸組織との協働や 学生の参画をもってより一層強化する。	[3]	達成して いる	2.00	[3]
中期計画3-1-3-1 【19-1】〇自治体、産業界との連携による公開講座、セミナー等を積極的に開催するとともに、高校生等の地域住民が大学教育に触れる機会を提供する。	[2]	実施している		[2]
中期計画3-1-3-2(★) 【19-2】○学生の地域社会への関心の涵養に資するため、自治体等への政策提言や大学と地域企業等との双方向コミットメントによる課題解決型プロジェクト等への参画を通じて、学生による地域社会への貢献を支援する。	[2]	実施している		[2]
中期計画3-1-3-3 【19-3】〇研究成果発信の一環としての各種イベント出展等を学内組織協働の下に推進する。	[2]	実施している		[2]
 大項目4 その他の目標	[3]	達成して いる	3.00	[3]
中項目4-1 グローバル化に関する目標	[3]	達成して いる	3.00	[3]
 小項目4-1-1 ○専門分野に応じた有能なグローバル人材を育成するため、研究を通じた普遍的な国際教育プログラムを 国際連携により深化させるとともに、戦略的に留学生の受入、派遣人数の飛躍的増加を図るため、地域活性 化にも着目したキャンパスのグローバル化を促進する。 	[3]	達成して いる	2.00	[3]
中期計画4-1-1-1(★)(◆)(*) 【20-1】○4学期制(クォーター制)の導入による留学しやすい環境・条件の整備とともに、外国人教員の教員数比率を約10%まで増加、英語による授業の拡大、留学生と日本人学生が共に履修するアクティブ・ラーニング授業科目の開設、アカデミック・アドバイジング、カリキュラムの国際通用性向上等を通じ、留学生支援体制の強化・充実を図り、さらに、混住型の国際学生寮を整備するなど、グローバル・キャンパス構築のための学内環境を整え、留学生の受入数が800名程度(学生数比率約9%)となるよう促進する。	[2]	実施している		[2]
中期計画4-1-1-2(★)(◆)(*) 【20-2】○短期海外研修プログラム、協定校との交換留学プログラム(国際本部)をはじめ、各学部・研究 科で実施する海外派遣プログラムなどの拡充により、海外派遣促進及び研究交流実績の活性化を図り、 海外派遣学生数が300名程度(学生数比率約3%)となるよう促進する。	[2]	実施している		[2]
中期計画4-1-1-3 【20-3】〇日本人学生・留学生等の互い同士が調和して地域交流活動等へ参画できるよう、学内の学生 団体への支援や埼玉県内の関係団体等との連携を推進する。	[2]	実施している		[2]
	[3]	達成して いる	2.00	[3]
中期計画4-1-2-1(★) 【21-1】○海外の協定校等とのダブルディグリー・プログラムの着実な実施と更なる拡充を図る。また、従前から取り組んできた研究者間交流を基盤とする理工系のLab-to-Labプログラムにおける特色ある取組みを、全学的に展開し実施する。	[2]	実施している		[2]

中期目標(大項目)	判	定	下位の中期目標・ 中期計画における 各判定の平均値 ※	(参考) 4年目 終了時の 判定
小項目4-1-3 ○海外の高等教育機関等向けに特色ある取組みを国際広報する。	[3]	達成して いる	2.00	[3]
中期計画4-1-3-1 【22-1】〇本学の国際展開を明確にし、優秀な留学生の獲得に資するため、学内の国際プログラムの実態(目的・現状・成果)、留学生受け入れ体制(教育内容・住環境)を具体的にホームページに掲載するなど、国際広報を充実させる。	[2]	実施している		[2]

- ★ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。
 (★):「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (◆): 文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (*): 新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画
- ※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値を そのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で4年目終了時に実施した学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価 現況分析:「教育」 当該法人における (I 教育活動の状況) (Ⅱ 教育成果の状況) 当該法人における 大項目「教育に関する目標」 の中項目の平均値 注2 × 係数 0.5 の全判定結果の平均値 現況分析:「研究」 【研究】 達成状況評価 当該法人における (I 研究活動の状況)、 (II 研究成果の状況) の全判定結果の平均値 当該法人における 大項目「研究に関する目標」 の中項目の平均値 注2 係数 0.5

- 注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。 注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。 なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均 値の合算値が一致しないことがある。